

大学の授業をデザインする (第15回)

九州大学未来人材育成機構
長沼祥太郎

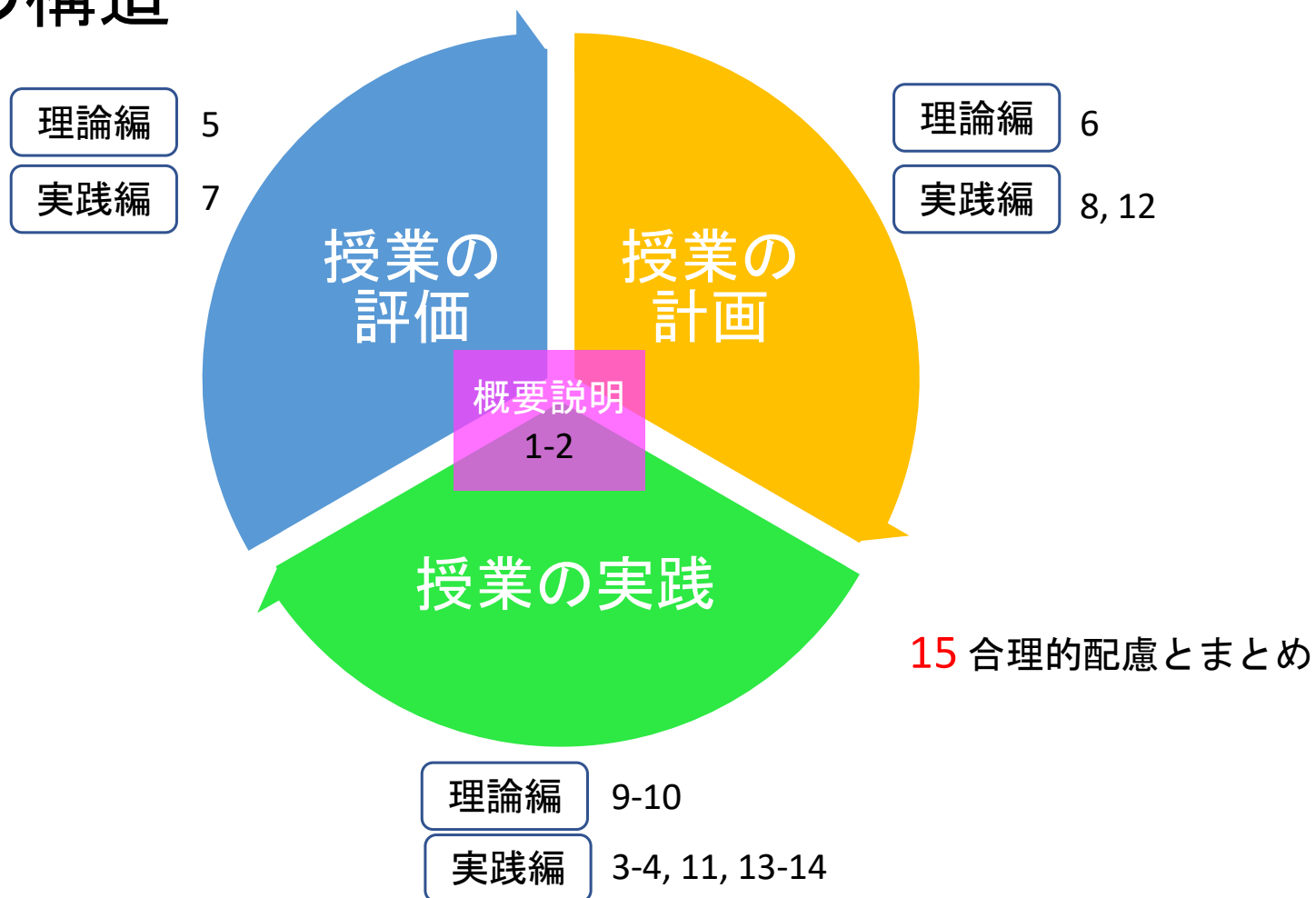


15. 合理的配慮体験とまとめ

* 最終回は10分程度長くなるかも。

No.	時間	内容	活動
1	10分	合理的配慮の振り返り	体験
2	5分	合理的配慮を試しに考える	個人ワーク
3	5分	ペアで意見交換	ペアワーク（シンク・ペア・シェア）
4	10分	最終レポートの説明	説明
5	5分	生成AIと教育の関係	説明
6	5分	ワークの説明	説明
7	5分	プロンプトの改善	個人ワーク
8	15分	プロンプトの共有・改善	グループワーク
9	15分	プロンプトの入力、結果発表	個人ワーク
10	5分	最後に	説明
11	10分	諸連絡・授業評価アンケート	個人ワーク

この授業の構造



本日の目標

1. 合理的配慮を行う上での留意点を述べることができる
2. 生成AIを使って授業案をデザインする

合理的配慮とは

- 障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ**適当な変更及び調整**であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、**均衡を失した又は過度の負担を課さないもの**（障害者の権利に関する条約 2条）
- 合理的配慮が必要な障害の種類：視覚障害、聴覚障害、精神・発達障害
 - 「見る」「聞く」「読む」「書く」「話す」「移動する」「操作する」において問題を抱える

発達障害について

- 自閉スペクトラム症（ASD: Autistic Spectrum Disorders）
 - 社会性の障害：対人コミュニケーション
 - 行動・興味、活動の限局：こだわり
- 注意欠如・多動症（ADHD: Attention Deficit Hyperactivity Disorder）
 - 不注意：注意の維持、集中力
 - 多動性・衝動性：落ち着かない、話しすぎる
- 学習障害（LD: Learning Disorder）
 - 読字、読解、書字、計算
 - 全般的な知的障害を伴わない

合理的配慮の例

視覚障害

	講義	演習	実験
物的環境	座席の確保		
意思疎通	資料の事前配布、電子データでの配布、拡大印刷、単眼鏡、拡大読書機などの使用、スライドの配色の工夫		薬品のラベルの工夫 変色などがわかりやすい形式に
ルール・慣行	—	実技科目への参加の工夫	実験補助者をつける

聴覚障害

	講義	演習	実験
物的環境	座席の確保、グループワークの際に別の教室を使う		
意思疎通	FM送信機を使用して説明を行う ノートテイクをつける、視覚情報を増やす		
ルール・慣行	リスニングテストの免除	グループサイズの調整 実技科目への参加の工夫	実験補助者をつける

合理的配慮の例

肢体不自由

	講義	演習	実験
物的環境	教室変更、車椅子座席の確保		
意思疎通	片面印刷、専用の書見台の使用、掲示板の情報を窓口で受け取る		
ルール・慣行	介助者の同席		

発達障害・精神障害

	講義・演習	実験
物的環境	座席の確保、出入りに近い座席を確保	
意思疎通	資料の配布（事前・当日・終了後）、 重要情報の視覚提示	レポートの書き方などの 具体的な指示
ルール・慣行	途中退出の許可、遅刻・早退・欠席の配慮、 テスト時間の延長、別室受験 グループワーク時の配慮、発表方法の変更、 質疑応答の調整	レポート提出期限の延 長 提出されたレポートの 添削

アプリ”色のシミュレーター”



“色のシミュレーター”をインストールして起動



C (一般型色覚) :

P (1型2色覚) :

赤い光を主に感じる錐体が無い

D (2型2色覚) :

緑の光を主に感じる錐体が無い

T (3型2色覚) :

青い光を主に感じる錐体が無い

発達障害を知る

動画を見てみましょう。

→<https://www.youtube.com/watch?v=qRQnHpaaUbE>

* 特に感想等は聞きません。

* 授業としてはみていただきたいですが、しんどい場合は無理してみなくても大丈夫です。

いかがだったでしょうか？

- 実際に授業で対面するのは、様々な障害を抱えた学生であるため、それぞれの学生との「建設的な対話」が欠かせません。
- 障害のある学生に対応する際に最も重要なのは、こちらが無意識に作ってしまっている社会的なバリアをできる限り取り除くことで、彼らは「他の学生と同じように学ぶことができる」という認識を授業者自身が持っているかどうか、だと考えています。
- 「障がいのある学生の気持ちを理解しなければならない」と焦るのではなく、彼らの具体的なニーズに対して、教員として授業内で対応できるかどうかを一緒に検討することが重要です。

合理的配慮要請への対応を考える

【シナリオ】

- あなたは「大学の授業をデザインする」の担当教員です
- 以下の学生Aの合理的配慮の要請に対して対応を考える必要があります。

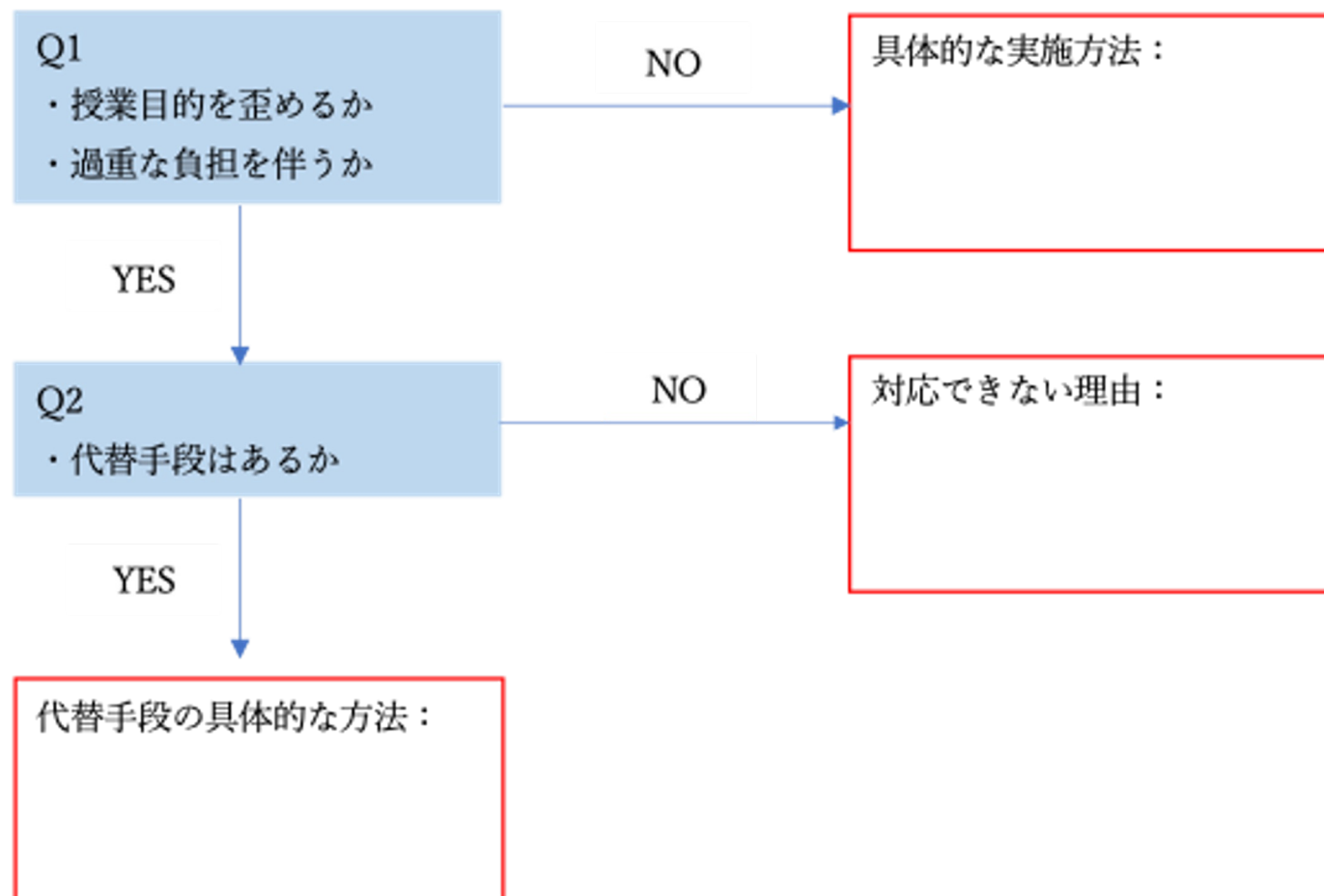
仮想事例

- 学生 Aさん
 - ☒ 自閉症スペクトラム、うつ病
 - ☒ コミュニケーションの苦手さ→リアルタイムで授業に参加して、教員と質疑応答を行ったり、他の学生とのコミュニケーションをとるのに困難を抱える
- 申請した合理的配慮内容
 - ☒ この授業の15回分をすべてオンデマンド授業にしてほしい

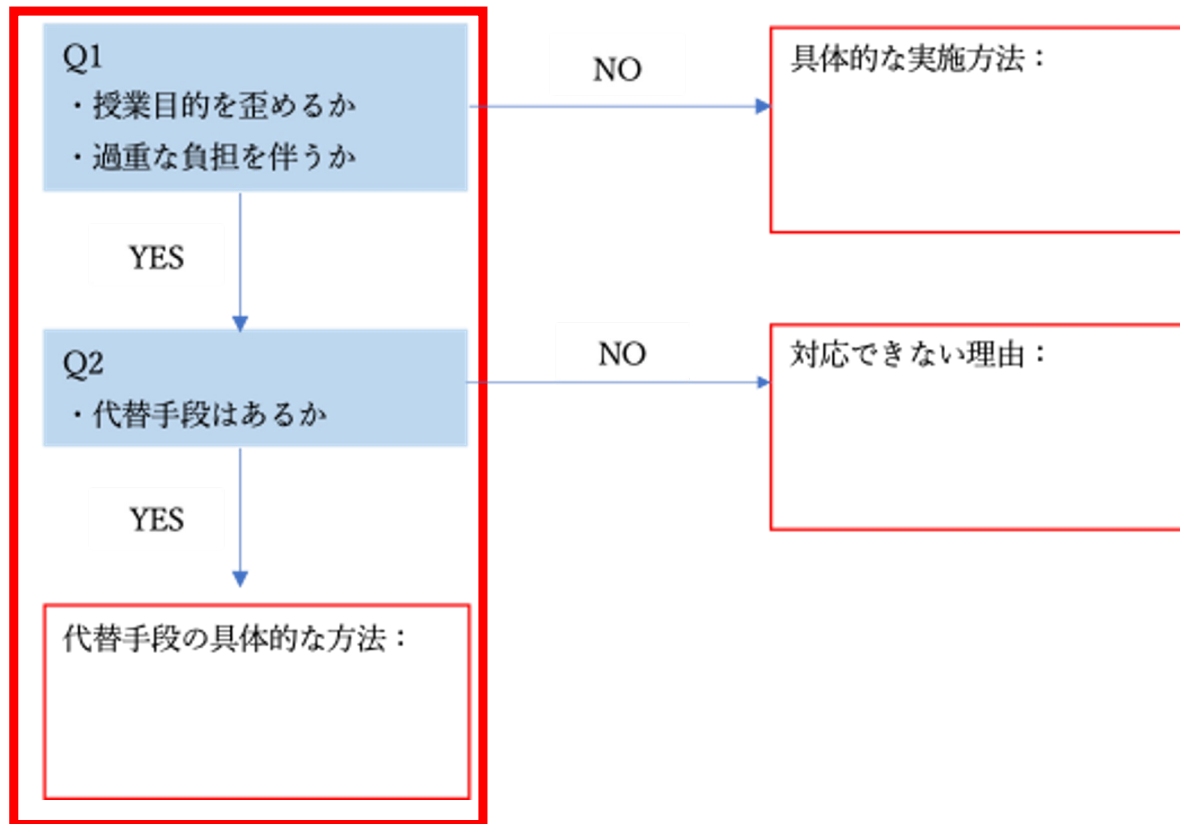
【シンク・ペア・シェア】

1. この要請に対してどのように対応するか1人で考えてください
2. ペアで意見を交換して、最終案を決定してください
3. ペアでの意見を全体でシェアしてください

このフローチャートを使ってください



例) 僕がこの授業に、「全部オンラインにして欲しい」と申請されたら



理由：

A1: マイクロティーチングは、教室で他の受講生がいる**緊張感**の中で実施し、学習者との**アイコンタクト**も学ぶことに意味があると考えている。**これはオンラインのみでは十分に指導できない。**そのため、授業目的を歪める。

A2:最終回以外はオンラインで参加することを可能にする。これにより、自分の落ち着く場所で受講できる。他の受講生のマイクロティーチングを見て、目線の配り方などに関して**簡単なレポートを追加で課す**。また、最終回に関しては教室にきてもらう必要がある。この場合、**他の学生よりも、対象とする学生の人数を少なめにする。**

レポート課題

- 以下の場合のように、学生から合理的配慮の申請があったと想定してください。

仮想事例①

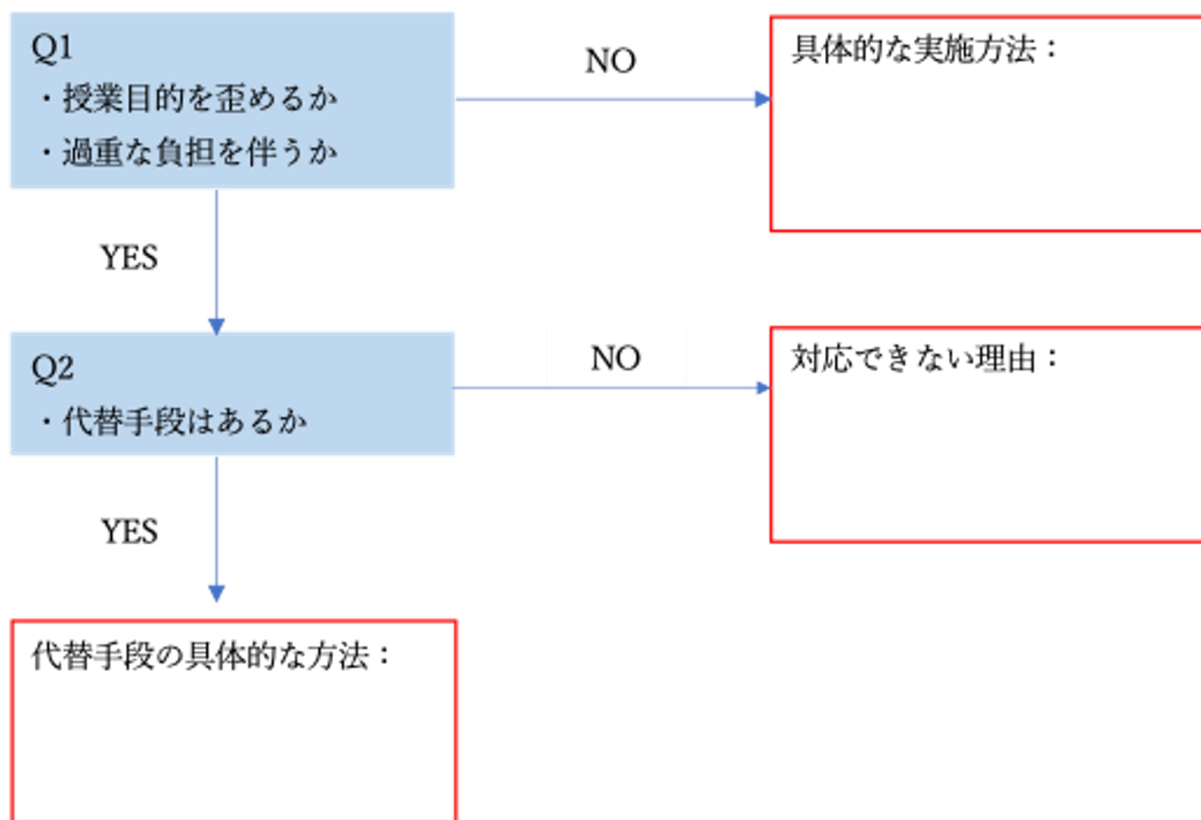
- 学生 Aさん
 - ❑ 自閉症スペクトラム、うつ病
 - ❑ コミュニケーションの苦手さ→リアルタイムで授業に参加して、教員と質疑応答を行ったり、他の学生とのコミュニケーションをとるのに困難を抱える
- 申請した合理的配慮内容
 - ❑ この授業の15回分をすべてオンデマンド授業にしてほしい

- 仮想事例は計4つ用意しました。
 - ❑ 自分にとって一番考える価値がありそうなものを1つ選んでください。
- その仮想事例において、申請された合理的配慮に対してどのように考えどのように対応するかを考えるのが最終レポートです。

レポート課題

このようなフローチャートを用意しています。

選んだ事例：



「合理的配慮」の評価(10%)

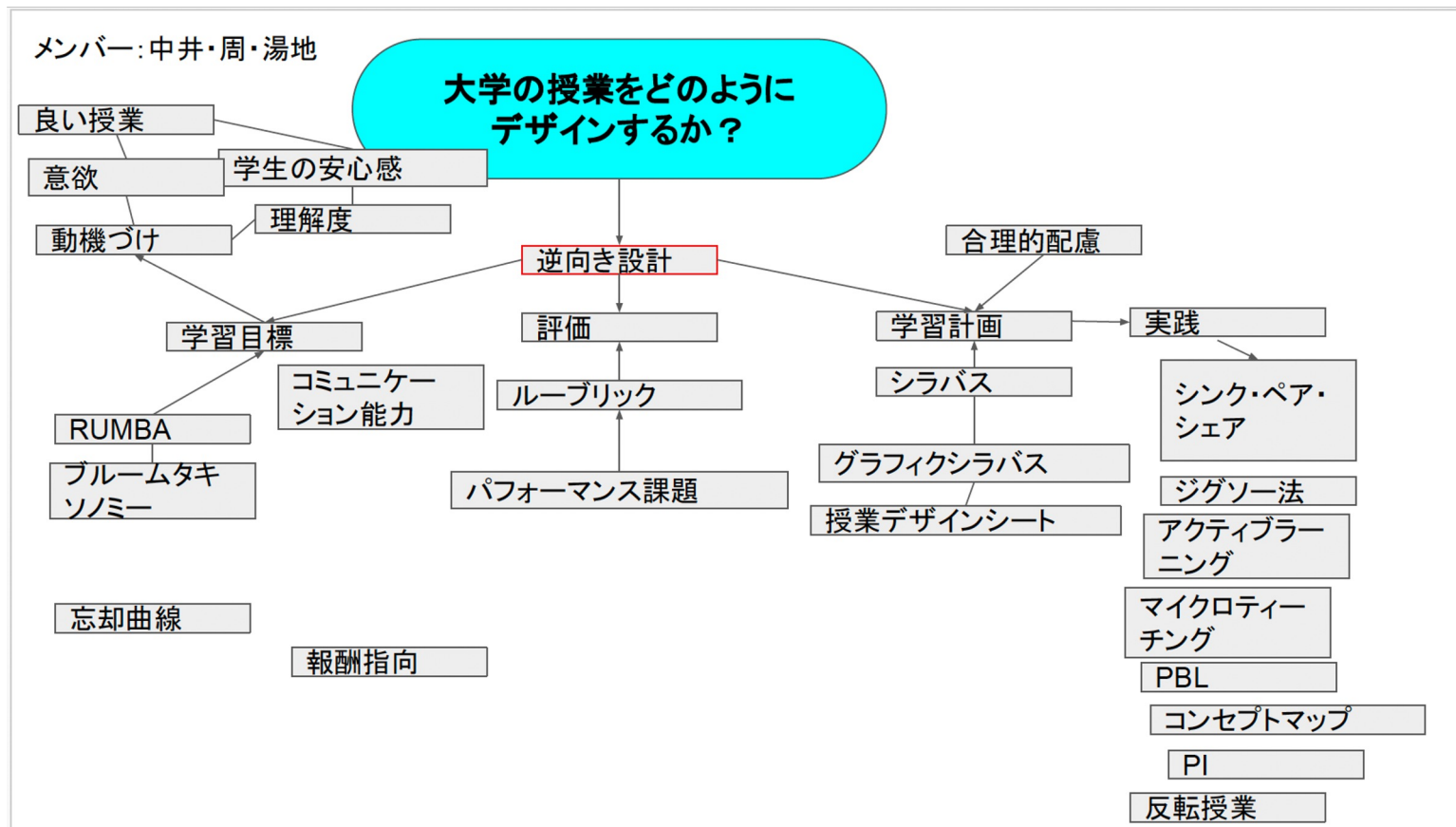
観点	レベル3 模範的	レベル2 発展段階	レベル1 標準的	レベル0 要改善
申請された合理的配慮への対応の適切さ	申請された「合理的配慮」に対して、提示された対応は非常に納得できると判断される。	申請された「合理的配慮」に対して、提示された対応はある程度納得できると判断される	申請された「合理的配慮」に対して、対応を提示しているが、提示された対応では、学生には不満が残ると考えられる	レベル1を満たさないもの。
合理的配慮への対応にかかる判断の適切さ	申請された合理的配慮に関して、最終的な判断のためによく考えた痕跡が見られる	申請された合理的配慮に関して、最終的な判断のために考えた痕跡がある程度見られる	申請された合理的配慮に関して、最終的な判断のために考えた痕跡が少しは見られるが、よく考えたとは到底言えない	

15. 合理的配慮体験とまとめ

* 最終回は10分程度長くなるかも。

No.	時間	内容	活動
1	10分	合理的配慮の振り返り	体験
2	5分	合理的配慮を試しに考える	個人ワーク
3	5分	ペアで意見交換	ペアワーク（シンク・ペア・シェア）
4	10分	最終レポートの説明	説明
5	5分	生成AIと教育の関係	説明
6	5分	ワークの説明	説明
7	5分	プロンプトの改善	個人ワーク
8	15分	プロンプトの共有・改善	グループワーク
9	15分	プロンプトの入力、結果発表	個人ワーク
10	5分	最後に	説明
11	10分	諸連絡・授業評価アンケート	個人ワーク

例年はコンセプトマップを作っていました



生成AIを授業で
活用できないか？

教員が生成AIを活用できる場面

Table 3. ChatGPT functions to support instructors in their teaching routines.

Aspect	Function	Other Representative Support
Teaching preparation	Generating course materials	[43,44,45]
	Providing suggestions	[8,27,37]
	Performing language translation	[45,47,48]
Assessment	Generating assessment tasks	[27,45,49]
	Evaluating student performance	[46,50,51]

■ 授業準備

- ✓ 教材作成
- ✓ 提案の提供
- ✓ 翻訳の実行

■ 評価

- ✓ 評価問題の作成
- ✓ 学生の成績の評価

Lo, C. K. (2023). What Is the Impact of ChatGPT on Education? A Rapid Review of the Literature. Education Sciences, 13(4), 410. MDPI AG. <http://dx.doi.org/10.3390/educsci13040410>

今から**授業準備**に生成AIを利用していきましょう！



【Final Task】

生成AIと相談しつつ、授業をデザインする

1. 教員が授業デザイン用の簡単なプロンプトを渡します
2. 個人：
 1. 自分が将来担当しそうな授業を考えて、
 2. 生成AIにプロンプトを入力して、授業をデザインしてください
 3. この授業で学んだことも思い出しながら、そのデザイン案をAIを使いながらブラッシュアップしてください
3. グループ：
 1. 作成したデザイン案を共有してください
 2. 自分のデザインを改善する上で、どのような場面で生成AIが利用できそうで、どこでは利用がオススメできないかの情報共有をしてください

Prompt

次回の授業を考えようとしています。

- ・ 授業時間は90分です。ただし、想定外のことが起きた時のために、80分の授業案を考えてください。
- ・ 対象は「（学部・学年など）」です
- ・ 科目名は「（科目名）」で、この時間のタイトルは「（90分のタイトル）」です。
- ・ 授業の最初に10分で前回の振り返り、5分でまとめの話を入れる必要があります。

上記の授業に対して、以下の点に気をつけて、80分の授業案を表形式で出力してください。

1. 学習目標：

- ・ この時間の学習目標を最大3つまで立ててください。
- ・ 「理解する」のような抽象的な動詞ではなく、行動的で観察可能な動詞（例えば、説明できる、デザインできる）を使用してください。

2. 内容

- ・ この時間に扱う内容を提案してください。
- ・ それぞれの内容に対応して、必要な時間を提案してください。
- ・ 授業形態を書いてください（例：説明、質疑応答、ディスカッション、演習、プレゼンテーション）
- ・ 集団様式を書いてください（例：個別、ペア、グループ、教室全体）

参考：学習者が生成AIを活用できる場面

Aspect	Function		Other Representative Support
Learning	Answering questions	"The ansv	[25,46,53]
	Summarising information		[23,29,44]
	Facilitating collaboration	"The ChatGF	[25,44,50]
Assessment	Concept checking and exam preparation	"ChatGP	[10,28,32]
	Drafting assistance	"stude	[23]
	Providing feedback	"C	[46,48,56]

■ 学習

- ✓ 質問に答える
- ✓ 情報を要約する
- ✓ 共同作業の促進

■ 評価

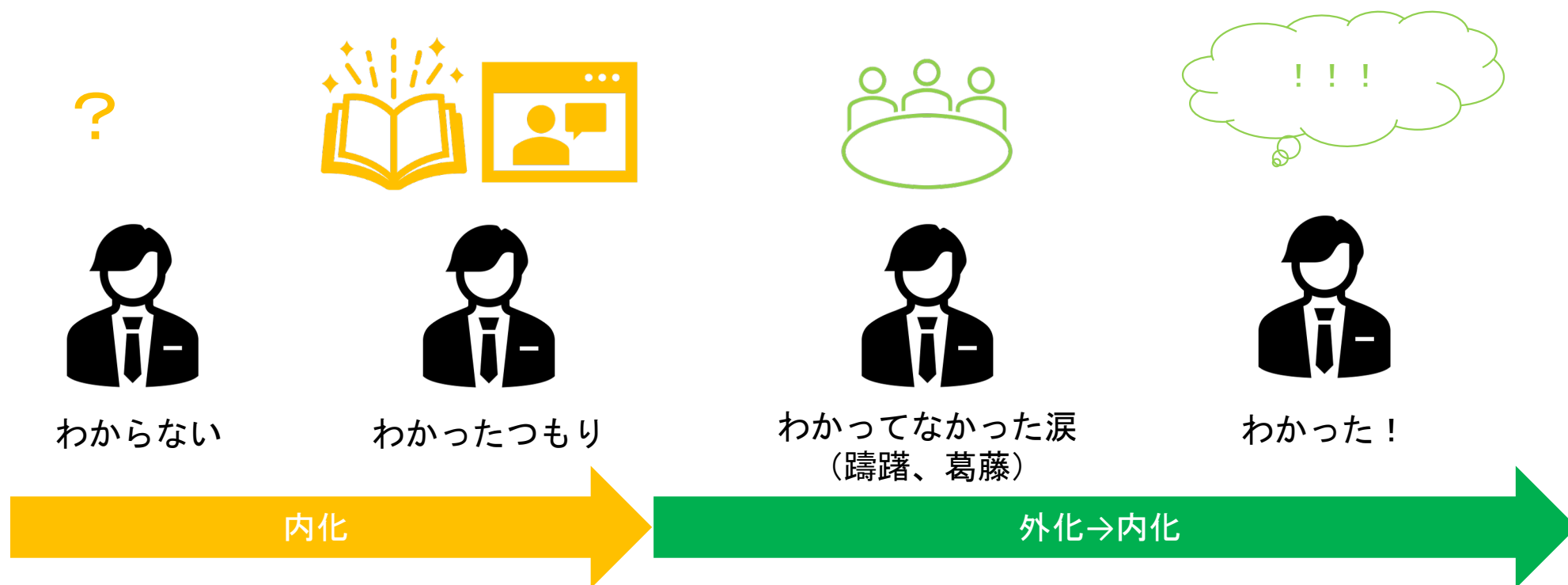
- ✓ 理解度チェックとテスト勉強
- ✓ ライティング支援
- ✓ フィードバックの提供

Lo, C. K. (2023). What Is the Impact of ChatGPT on Education? A Rapid Review of the Literature. Education Sciences, 13(4), 410. MDPI AG. <http://dx.doi.org/10.3390/educsci13040410>



まとめ

授業の意義 「わからない」から「わかった！」まで



「わかったつもり」まではオンデマンド教材や参考書・教科書でも十分な場合がある。
しかし、その先は難しく、ここに授業の意義を見出しています。

cf. 森 (2017) p.31

授業の意義 「わからない」から「わかった！」まで

逆向き設計論という言葉は聞いたことないです。



わからない

逆向き設計論わかりました。簡単です。



わかったつもり

全然逆向きに考えて授業できてませんでした。。



わかってなかった
(躊躇、葛藤)

やっとわかりました！！



わかった！

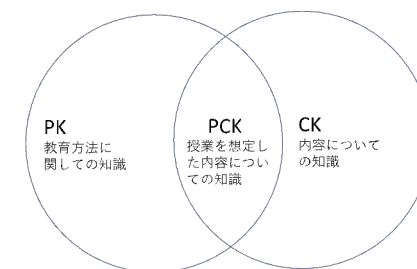
内化

外化→内化

「わかったつもり」を超える授業を目指していきましょう！

この授業で教えていないこと

- 今回の15回の授業では、実際に大学で授業を行う際に、必要なことに関しては、広くカバーしたつもりです。
- しかし、実際には、
 - 授業の中でどのようにしゃべるか（目線、声のトーンなど）
 - 授業が思わぬ方向に進んだ場合や時間が余った場合にどうするか
 - 英語ではどのように授業するか
 - まったく授業に集中しない学生にどうするか
 - 自分に敵対心を持っている学生にどう対応するかなど、今回は扱っていない悩みも出てくると思います。
- また、PCKは今後皆さんの中でより考えてもらう必要があります。



今後も教育力を高めていくためにできること

経験から学習する



同僚と話をする



研修（FD等）に参加する



学生の意見を取り入れる



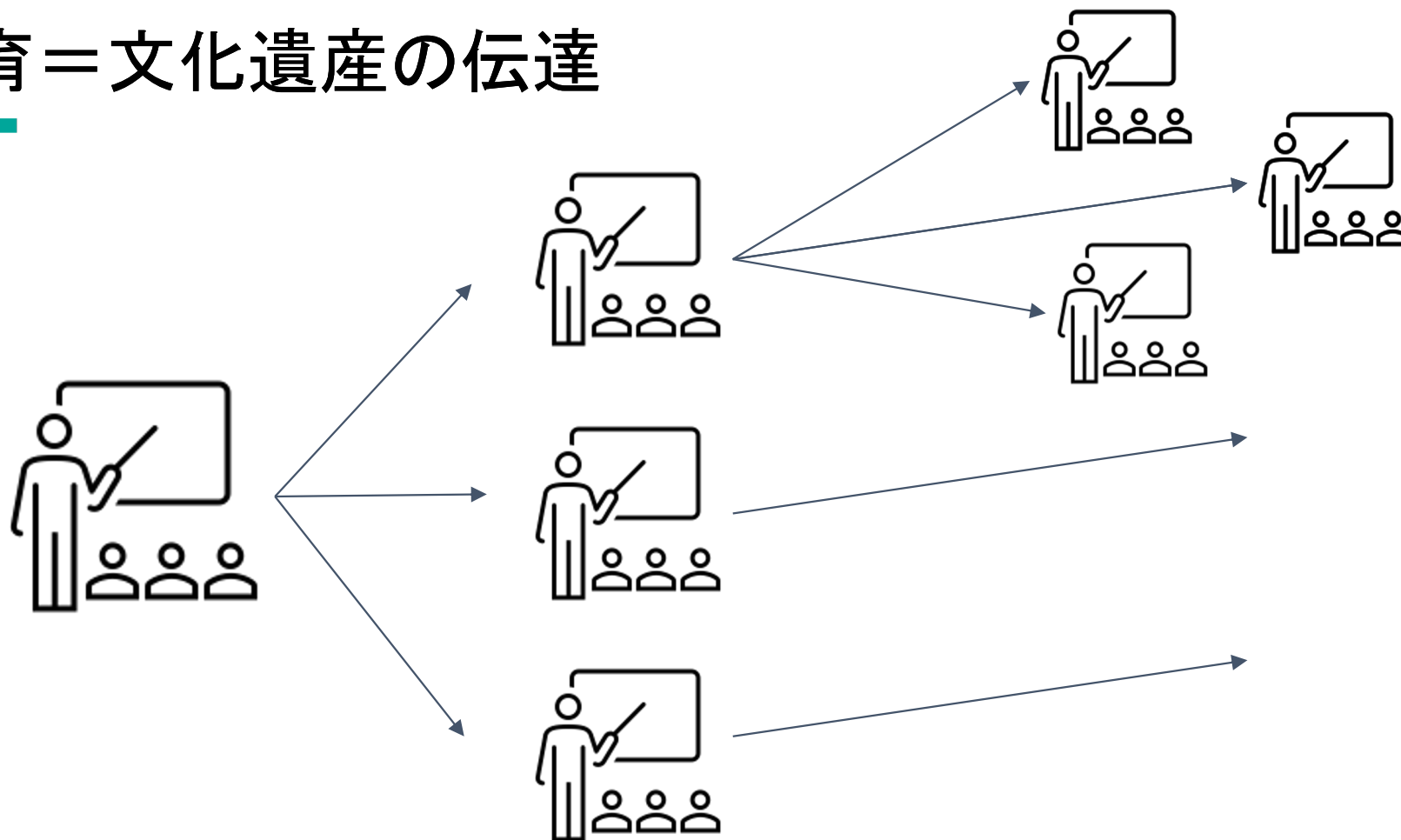
教育方法の本を読む



良い教育実践を見る



教育＝文化遺産の伝達



みなさんが今後良い授業をされ、それが学習者の人生に良い影響を与えることを期待します



諸連絡

最終課題等・今後の流れの案内

- 最終課題
 - 「逆向き設計のテンプレート」
 - 「シラバスのテンプレート」
 - ~~「授業デザインシート」~~の修正版
 - 「合理的配慮」に関するレポート課題
- ✕切：Moodleに記載します
- 提出：Moodle「最終課題」のところ

- 今後
 - 12月下旬：成績評価完了、料金後納返却
 - 1月上旬～中旬：PFFP修了証発行

修了証に関してのお尋ね



授業評価アンケートと修了証関係

1. Moodleにログインしてください
2. “DAY7”へ行ってください
3. 以下の2つに回答してください

- 授業評価アンケート
- 修了証関係のアンケート

記入が終われば、退出して大丈夫です。お疲れ様でした。